

prologue

東京のまちをつなげるメトロは、日々多くの乗客を乗せ、日常生活になくてはならない存在になっている。現代の地下空間は、移動空間としての役割だけではなく、ビジネス、ショッピング、観光、日常生活等と深く関わりあい、地上と同様に多くの人に利用されている。

そこで本案では、地下空間をヒト・モノ・トキが重なり合う一つの”まち”として捉え、これらからのまちづくりにおける新たな拠点として、人々から長く愛されていくような、新しいメトロの”風景”を提案する。

site



対象駅である銀座線赤坂見附駅・溜池山王駅・新橋駅の3駅が位置する区間は、江戸城外濠が存在していた場所と重っており、現在でも地下鉄の上は外堀通りと名称のついた道路が整備されている。(左図参照)江戸時代に、江戸城の防衛と城下の治安維持のためにつくられた外堀であるが、現在ではその外堀の一部が、都市の骨格を形成する大きな役割を担い、官公庁や大企業のビルが建ち並びビジネスエリアをつくりだしている。

approach

対象エリアに下記3つの要素を付加することで、メトロの”風景”をつくりだす

ビジネス + α → Metroscape

歴史

対象エリアにおける歴史や文化を感じ、まちへの愛着を持つことができるような空間を創出する

ゆとり

ビジネスエリアの玄関口として、高質でゆとりを感じるができる空間を創出する

シークエンス

ホームと地上空間、もしくは乗り換え空間を一体的に感じることができるような、豊かで連続した空間を創出する

※シークエンス：景観の連続、場面の展開のこと

material



外濠があった歴史を感じることができるように、各駅の素材の一部に石垣を用いる

user

大学3年生の就職活動中の女の子。「お父さんはどんな場所で働いているの？」この一言がきっかけで、溜池山王の外資系企業に勤める50歳の父親が、休日を利用してオフィス周辺を案内してくれることになっている。

ランチをした友人とは渋谷で別れ、私は銀座線に乗り込んだ。待ち合わせ場所は、4駅先の赤坂見附駅。溜池山王にある父の職場までは歩いていくことになっている。

銀座線は歴史が古いて聞いたことがあるけど、確かに、ホームに立ったときに雰囲気が変わる感じがした。いつもとは違う景色に胸が高まり、ビジネスエリアの街歩きに期待が膨らんだ。 赤坂見附駅→溜池山王駅→新橋駅

G05

赤坂見附
AKASAKAMITSUKE

- ビジネスエリアや歴史へと誘うゲート空間 -

赤坂見附駅に着き改札口を出た後に、父と合流した。「打ち合わせで何度か来たことがあるが、ここにくるとなんだか心が引き締まるんだ。」そういって父が指をさした柱には、石垣を思わせる素材が使われ、重厚な雰囲気が漂っている。まるでゲートのような柱は改札口を通る人を出迎えているようだ。時折すれ違うビジネスマンも、どこか凛としている。父曰く、今日案内する3つの駅は、昔江戸城の外濠があった場所につくられていて、特にこの赤坂見附には赤坂御門の歴史的な遺構が現在も残っているそうだ。思い出してみると、確かにホームの柱や壁にも同じようなデザインがされていたことに気がついた。永田町とも地下でつながっていることから、ここはビジネスや政治の場への入り口のように感じられた。



G06

溜池山王
TAMEIKESANO

- ハレとケの二面性を持つハイブリッド空間 -

赤坂見附駅の地上に出てしばらく歩くと、大きな神社が目に入った。この神社では日本三大祭りの一つである山王祭が行われていて、江戸時代には北斎や広重も描いたほど風光明媚な溜池があったらしい。神社の近くにある父のオフィスを見学した後、新橋に向かうため溜池山王駅に向かった。改札前に着くと床に円弧状の石張りがなされ、高級感のあるおもてなし空間が広がっていた。まるでオフィスのエントランスのようだ。ホームも統一されたデザインがなされていて、木の落ち着いた空間が心地よい。この場所は祭の時には提灯や旗が柱等に掲げられて、いつもの荘厳な雰囲気とは異なるハレの空間になることを父が教えてくれた。ビジネスだけでなく歴史や文化がある場所で父が働いていることが、とても誇らしく思えた。

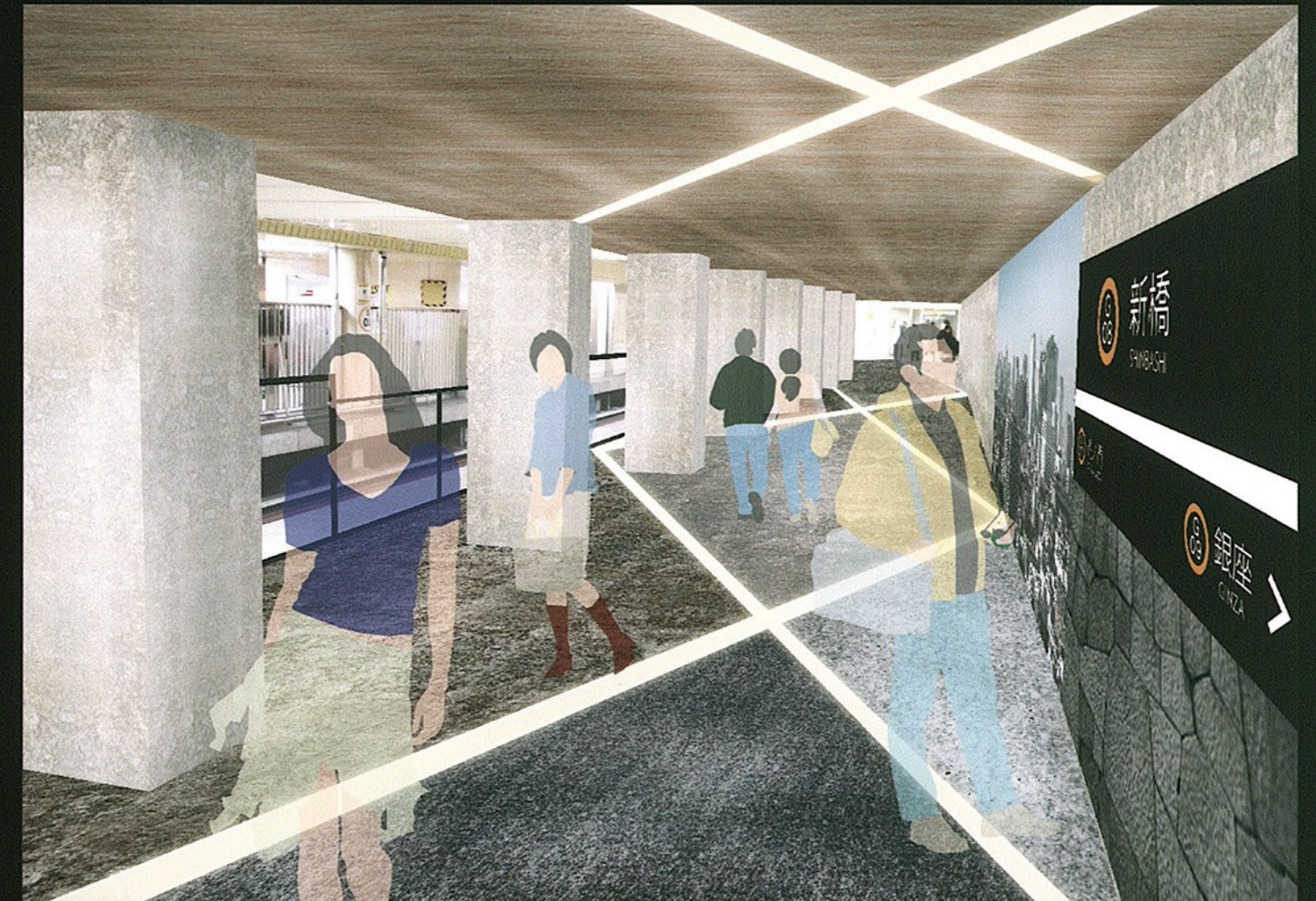


G08

新橋
SHINBASHI

- 多様なまちの色が織り成す重層空間 -

父が汐留のセミナーに参加するため、一緒に新橋駅に向かった。最近では汐留地区だけでなく、新橋駅周辺も再開発が進んでいて、常に街が変化し続けていると、初めて新橋駅で降りる私に父が教えてくれた。ホームに着くと、すぐにその印象をイメージすることができた。天井に走るスリッド状の照明がまちのスピード感を伝えている。視線を落とすと、異なる舗装材がつなぎ合わされ、まるで新橋の多様な土地柄を表しているようだ。改札前空間だけではなく、出入口も同じデザインがなされていて、地上と地下を連続的につなげているそうだ。父と別れ帰路につく途中、私は父の大きな背中を思い出していた。家についたらさっそく今日の出来事を母に話してみよう。私の見ている”風景”が少し変わった気がした。



MTR-A-0169